（別紙4）　　平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0972700330		
法人名	社会福祉法人二宮会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	栃木県真岡市石島463		
自己評価作成日	平成23年9月22日	評価結果市町村受理日	平成23年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1－10－6
訪問調査日	平成23年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・利用者同士助け合い、職員と共に仲良く生活されている。
・一人ひとりのペースで自由に過している
・併設施設との連携により行事等も充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当ホームは市南部・旧二宮町の周囲を田園地帯に囲まれ、真岡鉄道が直近に走る閑静な場所に位置している。敷地内には同法人の特別養護老人ホームやデイサービスセンターが併設されており、災害時の連携、入居者が重度化した場合の対応、各種研修会の開催等日々のケアに関して協力関係が密になっている。また、当ホームの職員は、入居者との日々の会話から、一人ひとりの趣向やこれまでの歩みなどを記載した「心のカルテ」を作成し、日々のケアや介護計画の見直しに役立てている。さらに、ケアする時間を長くとる趣旨から食事は宅配業者に委託している。料金体系も比較的安く設定し、入居しやすい状況を目指しているホームである。地域とは、地元の夏祭りに参加する一方、法人の行事には地域住民の方に参加してもらうなどの関係作りが出来ている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

社会福祉法人栃木県社会福祉協議会

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念をケア室に提示し共有して自覚意識し実践につなげている。	ホームの理念は職員が毎年話し合って作成している。今年度は「心身共に健康で、家庭・地域との連携を図る」とし、ケア室に掲示し、全職員で確認・復唱を行い、法人の理念とともに実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。地元の幼稚園・中学校や文化保存会（糸取り唄・おはやい）との交流施設での行事には地域の方々にも参加頂いている。	地域の神社の祭りに参加し、お囃子や太鼓を楽しむ一方、法人で実施している納涼祭等の三大行事には地域住民の参加がある。さらに、小中校からの学校招待や学童等の友愛訪問、近隣の農家から野菜の差し入れを受ける等、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域内の年通行事に参加し利用者の実態を説明したり意見を聞きできることアドバイスをさせてもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催し、行事や利用者の状況・活動の報告をすると共に参加者から意見をもらいサービス向上に活かしている。	運営推進会議は入居者及び家族代表、地域の関係者等で構成され、2か月毎に開催している。議題は、入居者の状況や事業概要が主であるが最近では防災についてが話題となった。家族からの意見などがあったときは全体会議につなげている。	会議の構成員はほぼ固定されているように思える為、地域とのつながりを広め効果を高めるためにも、その時々の議題に応じて、地域包括支援センター職員や地元の消防団員、警察職員等の関係者の参加を検討していくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話連絡や市に出向いた際には、現状報告したり協力を依頼している。	市担当者には定期的に現状報告を行い、制度や運営に関することも気軽に相談できる関係ができている。近年、同業であるグループホームも増加してきており、市主催のグループホーム会議が開催されるようになり積極的に情報交換を行い連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止の研修会を実施。 ケア室内に提示あり、全職員が認識・把握しており実践している。玄関等の出入り口には、開錠している。	法人全体で身体拘束防止に取り組んでおり、法人主催の研修会に参加するほか、当ホーム独自でも研修を行い、入居者に対する言動その他具体的な事項について理解を深め身体拘束防止に努めている。玄関は夜のみ施錠しお知らせメロディを付けるなど工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員研修会・部署会議において勉強会などあり話し合いしを実施、防止に努めている。		

自己	外部	グループホームさくら項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学んでいます。 関係機関と連携を取り合い、助言を頂いている。施設内にパンフレット（成年後見制度）を提示している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約時には、ご家族ら二名以上に同席して頂き、管理者・計画作成者と共に説明・話し合いを実施し、ご理解を頂いている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に声をかけたり、家族会議にて意見や要望を頂くなどしている。運営推進会議・職員会議にて報告し、それらの意見をもとに行事・運営などに反映している。	面会時や家族会議、運営推進会議の場で出された入居者・家族の意見・要望は、職員会議において報告・検討し、それらの意見等は運営に反映させている。通院介助や買い物、理容の依頼、体力が弱った時の心配等の要望がある。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、朝・夕のミーティング等日常的に現場の意見を聞き検討し出来るものより実施している。	管理者は日々の業務の中で職員の意見や提案を聞くよう心がけており、提案された設備の改善やケア用の器具の購入などの意見は、法人の連絡会議に報告・検討し実現に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績など把握したり、日常気づいた点の報告を受け、各自が向上心を持って働けるよう職場環境等の整備に努め、利用者にとってもより良い生活空間が保てるよう務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の職種に応じて、研修会に積極的にさせるよう、務めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所へ訪問し、介護について意見交換の場を持ち、サービス提供への関心度を向上させている。		

自己	外部	グループホームさくら項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時や面接時に話しを伺い、表情や態度にも注目し、本人の気持ちを受け止め不安などを汲み取るよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時や面接時に状況を伺い、気持ちを受け入れるよう務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切なサービスが受けられるよう、本人・家族の話しを良く聴き、助言などを行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事活動や園芸活動を行い、本来の個性や力を発揮し、築き上げてきた人生経験を活かして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への協力依頼や現状報告等行い、本人を皆で支えあえるような相互関係作りを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力で馴染みの床屋・歯科に行ったり、併設施設の友人に会いに行く機会を設けたりしている。 馴染みの場所を家族や本人に聞いて、ドライブ等実施し出かけて行く機会を設けている。	馴染みの人や場所については入居の際に把握し、これらを継続できるよう家族の協力を得ながら支援に努めている。思い出の場所へのドライブや誕生会への親類や友人の参加、併設施設利用の友人等との再会、理容・歯科通院等を実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事（外食・ドライブ）・レクリエーションを行い、利用者同士の関係を深めている。利用者同士の支えあい、助けあう、場面も多い。		

自己	外部	グループホームさくら項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院・退所後においても、家族より相談等があった場合には情報提供・助言など行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や表情から意向や希望を汲み取ったり、家族からも話しを聞き検討している	入居者との対話の中から、好きな色・食べ物・歌・好きなこと・心に残る思い出・戦争の体験・生まれた所などを聞き、それを個別に記入した「心のカルテ」を作成し、全職員で共有しながら思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時や契約時に生活歴をうかがったり、家族の面会時にも聞き情報」を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌やケース記録に記入し、現状把握・振り返りも行っている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月に一回、又は必要に応じてケース会議を行い介護計画に活かしています。日常の会話や行動にも注目したり、家族にも話しを聞き反映させています。	入居時に本人や家族及び関係者との話し合いを行い、意見や要望を取り入れ介護計画を作成している。さらに、担当職員制を置き、職員が作成した「心のカルテ」や家族・主治医からの意見をもとに、入居者の現状を見極めながら3か月毎にケース会議を行い、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌・ケース記録・介護経過記録を記入し、毎月ごとにモニタリングを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設があり利用者家族の状況・要望に応じて相談、協力を得ている。		

自己	外部	グループホームさくら項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の商店へ買い物や公園・床屋などへ外出している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院や、個々に応じた専門の医療機関と協力し、適切な医療が受けられるようにしている。	入居時に協力病院に変更する傾向にあるが、歯科・皮膚科等はかかりつけ医への受診となっている。通院は家族対応が原則だが場合により職員対応もある。協力病院の医師が週2回往診に来るほか、併設施設の看護師が週1回入居者の状況確認に来るなど適切な支援がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設より看護師が毎週月曜日に巡回あり、健康チェックし相談・助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	積極的に情報提供している。家族と連絡を取り合ったり、医療機関と情報をしたりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状について、常に家族に報告し、予想される状態においても理解を得られるようにしている。 職員全員で方針の検討をしている。	終末期のあり方については、家族の要望があれば可能な限りホームでの支援を考えているが、現在の職員体制では看取りまでは困難な状況にある。医療行為が必要となった場合は、主治医と相談のうえで病院や特養での対応をとらざるを得ないことを家族には説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を実施している。 緊急時の対応マニュアルが、ケア室に提示されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難訓練を実施している。 消防署との連携を図っている。	併設の特養等と法人全体での消防訓練・避難訓練を年2回実施している。また、ホーム独自での訓練を年1回実施している。消防署等や併設施設との連携体制が整備されているが地域の人との関わりは少ない。水や食料などの備蓄は業者に委託している。	現行の体制でも支障はないようにも思われるが、できれば地域の人々との関わりを広げ、有事に備え、協力が得られるような体制づくりを検討することに期待したい。

自己	外部	グループホームさくら項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての対応を基本とし自尊心を傷つけない介助・支援をさりげなくしている。個別対応しプライバシーを守ったり環境にも配慮している。	管理者が率先して職員共々尊厳を持って、入居者に接し、誇りやプライバシーを損ねないよう、「苗字＋さん」と呼んでいる。また、命令形のような言葉遣いはしないなど丁寧な言葉かけを行なっている。	車イスでの出入りが不便とのことでトイレの入り口がカーテンになっている。入居者の羞恥心や音等に配慮し、手前に仕切りを付ける等適切な支援が行えるよう、引き続き検討することを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係の構築に努め、本人が気軽に言えるよう配慮してしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせた配慮がされており、ゆったりとした生活空間で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みやその人らしい服装・髪型ができるよう柔軟に対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた食事量や形態に工夫している。 職員と一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対応している。	職員の負担軽減と介護時間増のため食事は宅配業者への外注となっている。食事の内容は家庭的で味・量とも適切であり、入居者は配膳等を手伝い職員と共に楽しみながら食べている。おやつは手作りのものを入居者と作っている。月3回のすし店やレストランでの外食も楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態や力に合わせ、量や形態を工夫している。献立は管理栄養士（委託業者）が作成。一緒に食事をすることで水分量や身体の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所は、各部屋にあり介助が必要な方には、口腔ケアを介助している。		

自己	外部	グループホームさくら項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し一人ひとりのパターンを把握し必要があれば誘導するなど、自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表により入居者個々の排泄状況やパターンの把握に努め、さりげない声かけや誘導を行いトイレでの排泄を支援している。失禁時にも他の入居者に知れないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量・水分量・運動にて対応している。医師・看護師との連携を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりの希望に合わせ、くつろいで入浴できるよう支援している。	浴槽を浅いものに変えたり、しょうぶ湯や入浴剤などにより入浴を楽しめるよう配慮している。入浴日は週2回となっているが希望により入浴日でない日でも入浴可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の適度な運動等心がけ、生活のリズムを整えたり、室内環境にも配慮している。 個々の睡眠パターンの把握に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認。状態の変化に対しては記録・確認している。看護師・医師との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活経験を活かした、園芸・工作・レクリーションを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と共に外出されたり、天気の良い日には近所を散歩している。希望時、日用品など、職員と一緒に買い物を実施している。	家族との外出や敷地内の散歩、併設施設でのレクリエーション参加のほか、入居者の希望する買い物や外食、近隣へのドライブに出かけるなど家族の協力を得ながら外出支援に取り組んでいる。	入居者の健康状態に配慮しつつ、可能な範囲で年1回程度の遠出の外出などの取り組みを検討することを期待したい。

自己	外部	グループホームさくら項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や能力に応じ、個人所有又預かり等があり、いつでも自由に使ったり、所持したりできる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話をしたり、手紙のやり取りは自由であり、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間を清潔に保ち、季節に応じた花や飾りを設置し、居心地良く過せるよう工夫している。	共用空間は明るく、壁やテーブルには季節の花や木の実など飾られ、さらに、学童からの贈り物の絵や入居者の手工芸品が置かれている。また、ディルーム内の和室には家具や人形等が備えられ、冬は炬燵が置かれるなど「お茶の間」の雰囲気を呈しており、居心地の良い生活空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやテーブルが数ヶ所に用意され思い思いの場所にて過せるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との相談で馴染みの家具や好みの物を持ち込んで頂いている。	居室は全室6畳の和室で、落ち着いた内装により自宅に居るような雰囲気になっている。家具類は入居者が使っていたものが持ち込まれ、小物類や写真なども持ち込まれ、各々が自分なりの居室として居心地良く過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見やすく、大きな文字の暦や時計を目につくところ設置。各所に手すりを設置。トイレ・居室の場所も分かりやすいよう、工夫している。		